

# デーヴォ ガイド



2023.1.30-2.5

BUT GROW IN THE GRACE AND KNOWLEDGE OF OUR  
LORD AND SAVIOR JESUS CHRIST. TO HIM BE  
GLORY BOTH NOW AND FOREVER! AMEN. II PETER

## LTG ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょ。 (2~3つ)
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょ。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い (なるべく短く)
- ④ 預言の祈り (主の御心を宣言して祈り) をします。

LTG Guide

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょ。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょ。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでもいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか? (または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④ 互いの必要のために祈りましょ。

Cell Group Guide

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

① 神のみこころは? (信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

② どんな思いになりましたか? (感情や願いなど)

③ 生き方にどう適用しますか? (あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④ この世にあって何を実践しますか?

Family Worship

## 30日 月曜

### I サムエル

4:12 一人のベニヤミン人が戦場から走って来て、その日シロに着いた。衣は裂け、頭には土をかぶっていた。

4:13 彼が着いたとき、エリはちょうど、道のそばの椅子に座って見張っていた。神の箱のことを気遣っていたからであった。この男が町に入って来て報告すると、町中こそって泣き叫んだ。

4:14 エリがこの泣き叫ぶ声を聞いて、「この騒々しい声は何だ」と言うと、男は大急ぎでやって来てエリに知らせた。

4:15 エリは九十八歳で、その目はこわばり、何も見えなくなっていた。

4:16 男はエリに言った。「私は戦場から来た者です。私は、今日、戦場から逃げて来ました。」するとエリは「わが子よ、状況はどうなっているのか」と言った。

4:17 知らせを持って来た者は答えて言った。「イスラエルはペリシテ人の前から逃げ、兵のうちに打ち殺された者が多く出ました。それに、あなたの二人のご子息、ホフニとピネハスも死に、神の箱は奪われました。」

4:18 彼が神の箱のことを告げたとき、エリはその椅子から門のそばにあおむけに倒れ、首を折って死んだ。年寄りで、からだが重かったからである。エリは四十年間、イスラエルをさばいた。

4:19 彼の嫁、ピネハスの妻は身ごもっていて出産間近であったが、神の箱が奪われて、しゅうとと夫が死んだという知らせを聞いたとき、陣痛が起こり、身をかがめて子を産んだ。

4:20 彼女は死にかけていて、彼女の世話をし



ていた女たちが「恐れることはありません。男の子が生まれましたから」と言ったが、彼女は答えもせず、気にも留めなかった。

4:21 彼女は、「栄光がイスラエルから去った」と言って、その子をイ・カボデと名づけた。これは、神の箱が奪われたこと、また、しゅうとと夫のことを指したのであった。

4:22 彼女は言った。「栄光はイスラエルから去った。神の箱が奪われたから。」

神様の栄光が去ってしまった民族、また家族、そして個人の悲惨さが表されています。神は御心を行うものと共におられますが、当時のイスラエルのように、またエリの息子たちのように、御心を無視するものはおられません。

エリは信仰がありましたが、次世代を育てるにあたっては、叱責する勇氣や育てるための氣力がなく、また不信仰がまねく結果について楽観していたようです。彼は「神の箱は奪われました。」との報告にショックを受けて落ちてしまったのです。

「自分はクリスチャンだから何とかなるだろう」とたかをくくって考えないようにしましょう。主はあわれみ深い方ですが、だからこそ主を愛して喜んでいただけるように、主を第一として生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



## 31日 火曜

### I サムエル



5:1 ペリシテ人は神の箱を奪って、エベン・エゼルからアシュドデまで運んで来た。  
5:2 それからペリシテ人は神の箱を取り、ダゴンの神殿に運んで来て、ダゴンの傍らに置いた。  
5:3 アシュドデの人たちが、翌日、朝早く起きて見ると、なんと、ダゴンは【主】の箱の前に、地にうつぶせになって倒れていた。そこで彼らはダゴンを取り、元の場所に戻した。  
5:4 次の日、朝早く彼らが起きて見ると、やはり、ダゴンは【主】の箱の前に、地にうつぶせになって倒れていた。ダゴンの頭と両手は切り離されて敷居のところであり、胴体だけがそこに残っていた。  
5:5 それで今日に至るまで、ダゴンの祭司たちやダゴンの神殿に入る者はみな、アシュドデにあるダゴンの敷居を踏まない。  
5:6 【主】の手はアシュドデの人たちの上に重くのしかかり、アシュドデとその地域の人たちを腫物で打って脅かした。  
5:7 アシュドデの人たちは、この有様を見て言った。「イスラエルの神の箱は、われわれのもとにとどまってはならない。その手は、われわれとわれわれの神ダゴンの上に厳しいものであるから。」  
5:8 それで彼らは人を遣わして、ペリシテ人の領主を全員そこに集め、「イスラエルの神の箱をどうしたらよいでしょうか」と言った。領主たちは「イスラエルの神の箱は、ガテに移るようにせよ」と言った。そこで彼らはイスラエルの神の箱を移した。  
5:9 それがガテに移された後、【主】の手はこの町に下り、非常に大きな恐慌を引き起こ

し、この町の人々を上のも下のもみな打ったので、彼らに腫物ができた。

5:10 ガテの人たちは神の箱をエクロンに送った。神の箱がエクロンにやって来たとき、エクロンの人たちは大声で叫んで言った。「私と私の民を殺すために、イスラエルの神の箱をこっちに回して来たのだ。」  
5:11 それで彼らは人を遣わして、ペリシテ人の領主を全員集め、「イスラエルの神の箱を送って、元の場所に戻っていただきましょう。私と私の民を殺すことがないように」と言った。町中に死の恐慌があったのである。神の手は、そこに非常に重くのしかかっていた。

5:12 死ななかつた者は腫物で打たれ、助けを求める町の叫び声は天にまで上った。

ダゴンとはペリシテ人の偶像です。神様はご自身の力を表すために、あえてダゴンの像を破壊しました。神ご自身がその臨在を表すための神の箱が侮られないためです。

以前はこの神の箱がイスラエルにあり、それゆえにイスラエルが戦いに勝つものと信じられていましたが、神様はイスラエルの不信ゆえに勝利をお与えにはなりません。そして今はイスラエルの敵であるペリシテ人とその偶像に「大きな恐慌」を引き起こしたのです。

すなわち生きた聖なる神様は、偶像の神々のように、そこに安置すれば助けてくれるようなものではありません。また儀式を守ればご利益があるというようなものではないのです。生けるまことの神は、聖なる方であり揺るぎないご計画を持っておられます。その神の前にきよく生き、そしてご計画に従って生きる者が神様の恩恵にあずかることができるのです。

信仰生活が形骸化していないか、見かけや習慣だけで安心してないか考えてみましょう。生きた神様から恵をいただけるような信仰生活をして

いるかどうかを吟味してみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ▶ 1日 水曜

### I サムエル



6:1 【主】の箱は七か月間ペリシテ人の地にあった。

6:2 ペリシテ人は祭司たちと占い師たちを呼び寄せて言った。「【主】の箱をどうしたらよいでしょうか。どのようにして、それを元の場所に送り返せるか、教えてください。」

6:3 彼らは答えた。「イスラエルの神の箱を送り返すのなら、何もつけないで送り返してはなりません。神に対して償いをしなければなりません。そうすれば、あなたがたは癒やされるでしょう。また、なぜ、神の手があなたがたから去らないか分かるでしょう。」

6:4 人々は言った。「私たちが送るべき償いのものは何ですか。」彼らは言った。「ペリシテ人の領主の数に合わせて、五つの金の腫物、つまり五つの金のねずみです。彼ら全員、つまりあなたがたの領主たちに、同じわざわいが下ったのですから。」

6:5 あなたがたの腫物の像、つまり、この地を破滅させようとしているねずみの像を造り、それらをイスラエルの神に貢ぎとして献げなさい。もしかしたら神は、あなたがたと、あなたがたの神々、そしてあなたがたの地の上ののしかかっている、その手を軽くされるかもしれません。

6:6 なぜ、あなたがたは、エジプト人とファラオが心を硬くしたように、心を硬くするのですか。神が彼らに対して力を働かせたときには、彼らはイスラエルを去らせ、イスラエルは出て行ったではありませんか。

6:7 今、一台の新しい車を用意し、くびきを付けたことのない、乳を飲ませている雌牛を二頭取り、雌牛を車につなぎ、その子牛は引

き離して小屋に戻しなさい。

6:8 また、【主】の箱を取って車に載せなさい。償いとして返す金の品物を鞆袋に入れて、そのそばに置きなさい。そして、それが行くがままに、去らせなければなりません。

6:9 注意して見ていなさい。その箱がその国境への道をベテ・シエメシュに上って行くなら、私たちにこの大きなわざわいを起こしたのはあの神です。もし行かないなら、神の手が私たちが打ったのではなく、私たちに偶然起こったことだと分かります。」

6:10 人々はそのようにした。彼らは乳を飲ませている雌牛を二頭取り、それを車につないだ。子牛は小屋に閉じ込めた。

6:11 そして【主】の箱を車に載せ、また金のねずみ、すなわち腫物の像を入れた鞆袋を載せた。

6:12 雌牛は、ベテ・シエメシュへの道、一本の大路をまっすぐに進んだ。鳴きながら進み続け、右にも左にもそれなかった。ペリシテ人の領主たちは、ベテ・シエメシュの国境まで、その後について行った。

ペリシテ人たちはまことの神の存在とその力を見せつけられながら、なおもその神に従うことをせず、自分たちの迷信的な方法で対処しようとします。神に対して目が曇っている人間の様子がここに表されています。

雌牛がその子を追わずに別の方角に進むなどという有り得ないことが起こるように、神の力を見る機会は世の人にもあるのですが、彼らは神の力を見ても、また聖書的な倫理基準の恩恵を受けていても、そしてキリスト者の証しを見聞しても、イエスキリストの父なる神を信じようとはしませ

しかしそれはまたかつての私たちの姿です。主のあわれみによって信仰に至ったことを感謝し、また謙りましょう。またこれから救われる人々に対しても、説得だけではなく、やはり神様の恵みの力であることを思い、祈りに励みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 2日 木曜

### I サムエル

6:13 ベテ・シメシユの人たちは、谷間で小麦の刈り入れをしていたが、目を上げると、神の箱が見えた。彼らはそれを見て喜んだ。

6:14 車はベテ・シメシユ人ヨシユアの畑に来て、そこにとどまった。そこには大きな石があった。人々は、車の木を割り、雌牛を全焼のささげ物として【主】に献げた。

6:15 レビ人たちは、【主】の箱と、そばにあった金の品物の入っている鞍袋を降ろし、その大きな石の上に置いた。その日、ベテ・シメシユの人たちは全焼のささげ物を献げ、いけにえを【主】に献げた。

6:16 ペリシテ人の五人の領主は、これを見て、その日エクロンに帰った。

6:17 ペリシテ人が償いとして【主】に返した金の腫物は、アシュドデのために一つ、ガザのために一つ、アシュケロンのために一つ、ガテのために一つ、エクロンのために一つであった。

6:18 すなわち、金のねずみは、五人の領主に属するペリシテ人の町の総数によっていた。それは、砦の町と城壁のない村の両方を含んでいる。彼らが【主】の箱を置いたアベルの大きな台は、今日までベテ・シメシユ人ヨシユアの畑にある。

6:19 主はベテ・シメシユの人たちを打たれた。【主】の箱の中を見たからである。主は、民のうち七十人を、すなわち、千人に五人を打たれた。【主】が民を激しく打たれたので、民は喪に服した。

6:20 ベテ・シメシユの人たちは言った。「だが、この聖なる神、【主】の前に立つことができるだろう。私たちのところから、



だれのところの上って行くのだろうか。」  
6:21 彼らはキルヤテ・エアリムの住民に使者を遣わして言った。「ペリシテ人が

【主】の箱を返してよこしました。下って来て、あなたがたのところへ運び上げてください。」

ペリシテ人は相変わらず自分たちの勝手な方法で聖なる神をなだめようとしていました。彼らは自分たちの方法が良かったと思い込み、また偶像の神ダゴンへと戻っていったのです。主を信じない者の姿がそこにありますが、もしも私たちが誰かが主に近づく姿を見たなら、伝道のチャンスとして救いのために生かしたいものです。

ベテ・シメシユの人たちは「主の箱の中を見た」ことによって打たれました。これはあまりにも厳しい裁きであると感じるかもしれませんが、それは神の聖なることと私たち人間の罪あることを考えるなら理解できるでしょう。

すなわち、彼らは箱を見たのですがそれ以前の問題として、主の前に生きることができない罪人なのです。人類は罪ゆえに人と争い、人を殺し、人を不幸に陥れます。その罪の心があるまま神の前に存在することは、神の聖なることを歪めてしまうのです。また神がそれを許せば人の争いや不幸は消えません。そこで神様は、罪ある者が唯一生きることのできる道を備えられたのです。それが旧約の律法にある規定です。その規定を破るなら、その人は自分の罪が唯一赦される道を自ら拒むことになるのです。

同じように、主イエスの十字架によらなければ救われないという福音を排他的だという人もいます。それも同様で、人はもともと裁かれなければならない存在であって、神様はただあわれみのゆえに唯一救いの道を備えてくださったのですから、そのあわれみをも拒否することは、結局自分の犯した罪の結果を引き受けなければならないということです。

主の聖であることのゆえにひれ伏し、あわれみ

のゆえに感謝し、十字架の救いのゆえに喜び、主に全幅の信頼を置いて従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



## 3日 金曜

### I サムエル

7:1 キルヤテ・エアリムの人々は来て、【主】の箱を運び上げ、丘の上のアビナダブの家に運んだ。そして、【主】の箱を守るために彼の息子エルアザルを聖別した。

7:2 箱がキルヤテ・エアリムにとどまった日から長い年月がたつて、二十年になった。イスラエルの全家は【主】を慕い求めていた。

7:3 サムエルはイスラエルの全家に言った。「もしあなたがたが、心のすべてをもって【主】に立ち返るなら、あなたがたの間から異国の神々やアシュタロテを取り除きなさい。そして心を【主】に向け、主のみ仕えなさい。そうすれば、主はあなたがたをペリシテ人の手から救い出してくださいませ。」

7:4 イスラエル人は、バアルやアシュタロテの神々を取り除き、【主】にのみ仕えた。

7:5 サムエルは言った。「全イスラエルを、ミツパに集めなさい。私はあなたがたのために【主】に祈ります。」

7:6 彼らはミツパに集まり、水を汲んで【主】の前に注ぎ、その日は断食した。彼らはそこで、「私たちは【主】の前に罪ある者です」と言った。こうしてサムエルはミツパでイスラエル人をさばいた。

7:7 イスラエル人がミツパに集まったことをペリシテ人が聞いたとき、ペリシテ人の領主たちはイスラエルに向かって上って来た。イスラエル人はこれを聞いて、ペリシテ人を恐れた。

7:8 イスラエル人はサムエルに言った。「私たちが離れて黙っていないでください。私たちの神、【主】に叫ぶのをやめないでください。主が私たちをペリシテ人の手から救っ



てくださるようにと。」

7:9 サムエルは、乳離れしていない子羊一匹を取り、焼き尽くす全焼のささげ物として【主】に献げた。サムエルはイスラエルのために【主】に叫んだ。すると【主】は彼に答えられた。

7:10 サムエルが全焼のささげ物を献げていたとき、ペリシテ人がイスラエルと戦おうとして近づいて来た。しかし【主】は、その日ペリシテ人の上に大きな雷鳴をとどろかせ、彼らをかき乱したので、彼らはイスラエルに打ち負かされた。

7:11 イスラエルの人々は、ミツパから出てペリシテ人を追い、彼らを討ってベテ・カルの下にまで行った。

主の厳かなみわざのゆえにイスラエルの人々は主を恐れましたが、その恐れは「慕い求め」る思いを生み出しました。主を恐れる者は主に従い、主に従う者に主は恵で答えてくださり、主の恵を受ける者は主を慕うからです。このように主を恐れるということは大きな祝福であるということをお忘れないようにしましょう。また私たちは愛する人には、主を恐れるように勧める必要があります。

そこでサムエルはイスラエルの民に恵みによって平安があるように、彼らの信仰をさらに確かなものとするために、偶像や不信仰から手を切るように勧めました。それゆえにペリシテ人が攻めて来たときも彼らは主に頼りました。当然主はその信仰に答えてくださったのです。

このように主の祝福をいただきたいと思ったら、偶像や不信仰を取り除くことが基本中の基本です。「イスラエルの人々は…追い」とありますから、見かけ上は彼らが戦ったかのように見えたでしょうが、実際は主の雷鳴が勝利を与えたのです。

家庭、職場、学校、人間関係などなどで、もしも祝福が感じられなかったら、何か心の小さな偶

像か不信仰が放置されているかもしれません。さらにきよい者となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



## ➤ 4日 土曜

### I サムエル

7:12 サムエルは一つの石を取り、ミツパとエシェンの間に置き、それにエベン・エゼルという名をつけ、「ここまで【主】が私たちに助けてくださった」と言った。

7:13 ペリシテ人は征服され、二度とイスラエルの領土に入って来なかった。サムエルの時代を通して、【主】の手がペリシテ人の上のしかかっていた。

7:14 ペリシテ人がイスラエルから奪い取っていた町々は、エクロンからガテまでが、イスラエルに戻った。イスラエルはペリシテ人の手から、その領土を解放した。そのころ、イスラエルとアモリ人の間には平和があった。

7:15 サムエルは、一生の間、イスラエルをさばいた。

7:16 彼は年ごとに、ベテル、ギルガル、ミツパを巡回し、これらすべての聖所でイスラエルをさばき、

7:17 ラマに帰った。そこに自分の家があり、そこでイスラエルをさばいていたからである。彼はそこに【主】のために祭壇を築いた。



かつては敗北したその場所が勝利の記念のところとなりました。それは「主が私たちに助けてくださった。」という証しです。敗北は神なしでもやっていけるという傲慢から神を無視したことによってもたらされましたが、勝利は神に従わなければ敗北であるという信仰によってもたらされました。

個人でも教会でも小グループでも、記念となるような証しはこうに神のみわざを伝えるためであって、人の業績を伝えるためではないことを銘記すべきです。人をほめることは良いことのように思えますが、それで終わってしまつては、イスラエルのように民を不信仰に陥らせることにもなるのです。

しかし主により頼む信仰を分かちあるなら、かつては失敗したことでさえ勝利に必ず変えられるのですから希望を持ち、それを分かち合いましょ

う。イスラエルの信仰が回復したとはいえ、サムエルはそれで安心せずに各地を巡回しました。信仰とは神様との生きた関係ですから、過去に信仰の行いがあったからといって、それで完結したわけではありません。常に互いに信仰の分かち合いが必要であり、また霊的指導者からの導きも必要です。

もう自分たちは信仰に戻ったから指導者は必要ないとは言わずに、謙遜にサムエルの教えを仰いだところに、イスラエルの平和は続いたと考えられます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



## 5日 日曜

### I サムエル

- 8:1 サムエルは、年老いたとき、息子たちをイスラエルのさばきつかさとして任命した。
- 8:2 長男の名はヨエル、次男の名はアビヤであった。彼らはベエル・シェバでさばきつかさをしていた。
- 8:3 しかし、この息子たちは父の道に歩まず、利得を追い求め、賄賂を受け取り、さばきを曲げていた。
- 8:4 イスラエルの長老たちはみな集まり、ラマにいるサムエルのところにやって来て、
- 8:5 彼に言った。「ご覧ください。あなたはお年を召し、ご息子たちはあなたの道を歩んでいません。どうか今、ほかのすべての国民のように、私たちをさばく王を立ててください。」
- 8:6 彼らが、「私たちをさばく王を私たちに与えてください」と言ったとき、そのことはサムエルの目には悪しきことであった。それでサムエルは【主】に祈った。
- 8:7 【主】はサムエルに言われた。「民があなたに言うことは何であれ、それを聞き入れよ。なぜなら彼らは、あなたを拒んだのではなく、わたしが王として彼らを治めることを拒んだのだから。」
- 8:8 わたしが彼らをエジプトから連れ上った日から今日に至るまで、彼らのしたことといえば、わたしを捨てて、ほかの神々に仕えることだった。そのように彼らは、あなたにもしているのだ。
- 8:9 今、彼らの声を聞き入れよ。ただし、彼らに自分たちを治める王の権利をはっきりと宣言せよ。」



サムエルは公人としては充実していましたが、エリと同じく子どもの教育には失敗しました。「息子たちは父の道に歩まず」とありますから、親が良い信仰者であったからといって子どもが自動的に良い信仰者になるとは限りないとわかります。

その対応としてイスラエルの民は神の御心を求めずに、王を求めました。それは他の異教の民と同じ方法で、神を無視するやり方です。クリスチャン同士で問題が起こると、すぐにこの世の方法で解決しようとする姿と同じです。全ての人は神様が創造されたのですから、信仰的な解決もこの世のそれも共通する場合がありますが、御心を土台に据えないなら、いつまでも本当の解決はないのです。

この後、イスラエルは信仰的な王のもとでは繁栄しますが、反逆の王のもとでは滅ぼされるという歴史が始まってしまいます。クリスチャンでも人間による強いリーダーシップを求める人もありますが、神以外のものを王のようにしてしまうなら、次節以下にあるように必要以上の権力が生まれ、共同体の姿が変質していきます。

神の共同体においては王のように権力を持つ存在は神以外にありません。指導者は自分の権力ではなく、聖霊の力と恵によって人々を導くのです。そしてメンバーは人への服従ではなく、聖霊とみことばの促しによって従うのです。そして神ご自身に従うことになります。これが神の共同体です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

